

PCR検査集中実施・試行実施(トライアル)の振り返りについて

令和3年3月15日
新型コロナウイルス感染症対策担当

1 試行実施の目的について

「PCR検査集中実施事業」については、2月に入って感染者が急速に減少してきたことから、一旦、保留し、部分的・試行的にPCR検査を行うことで、広報、検査、検査結果の連絡、積極的疫学調査、ホテルへの患者搬送といった一連のオペレーションが、想定通り機能するかどうかを確認し、課題があればその問題点を改善し、次の感染急増時に備えて検査体制の精度を高める。

2 試行実施の概況について

区 分	A 居住者	B 就業者
日 程	2/19(金)～2/22(日)	2/24(水)～2/26(金)
対 象 者 (当初計画人数)	中区内の居住者 約6,000人	中区内の事業所 (従業員30人以上) 約2,000人
検査場所	旧広島市民球場跡地	事業所単位で検体を集約し、 県が検体を回収
検査方法	ウォークイン・ドライブスルー	
受検者数	3,238人	3,335人(61事業所)
陽性者数	4人(陽性率:0.12%)	0人

3 陽性者の特徴

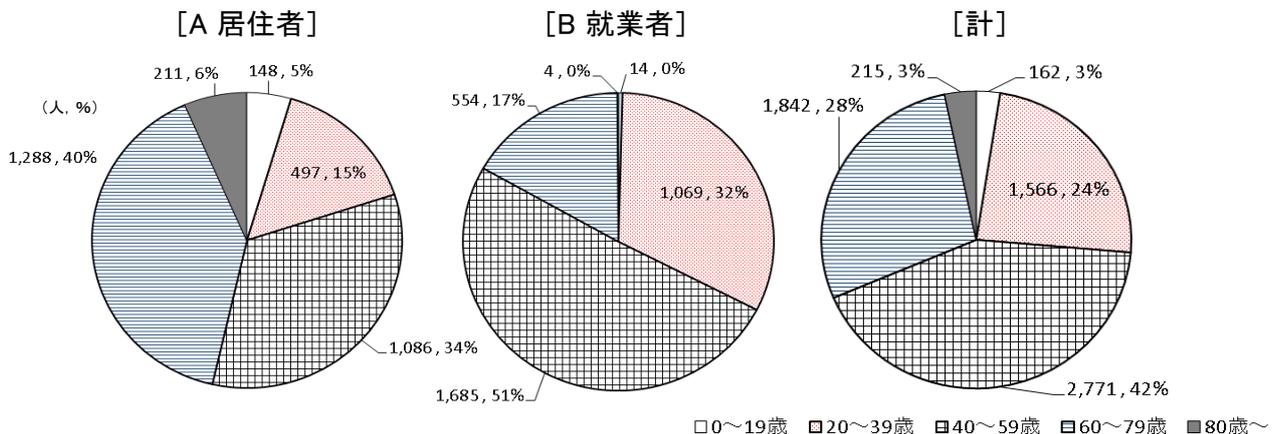
	年代	症状	14日以内に3密・流行地訪問	14日以内に陽性者に接触	14日以内に県外往来	検査は初めて
A	50歳代	なし	訪問した	なし	あり	初めて
B	40歳代	風邪症状(14日以内)	なし	なし	あり	初めて
C	40歳代	風邪症状	なし	なし	あり	初めて
D	60歳代	風邪症状(14日以内)	訪問した	なし	あり	初めて

※ 陽性者は、3密の場所や感染流行地を訪問したり、県外往来の共通項がある。

4 受検者の概況

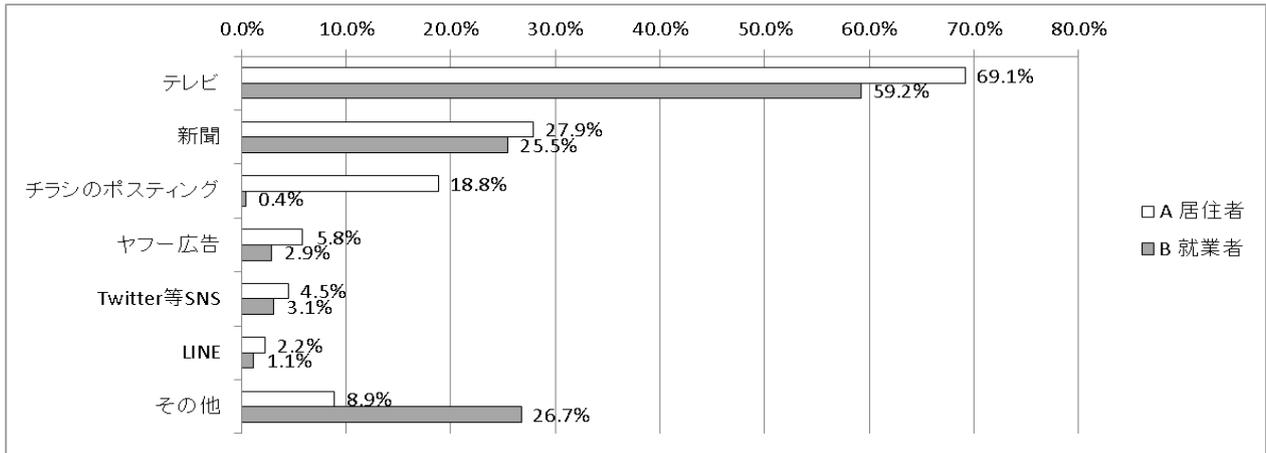
① 年齢階級別受検者数・割合

→受検者数は、30歳代以下の若年層が少ない。



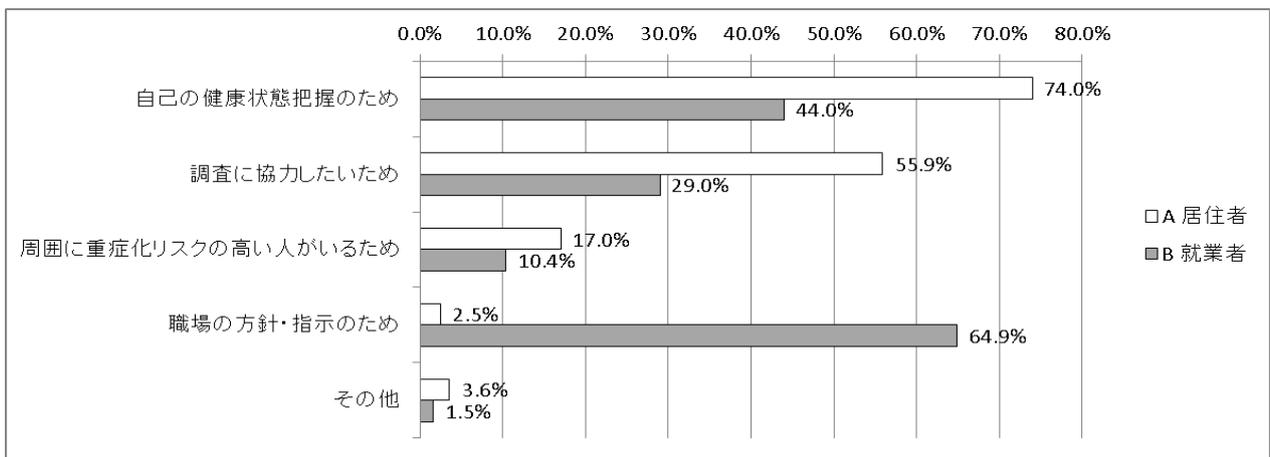
② 検査を知ったきっかけ

→「テレビ」が最も多い。居住者では、チラシのポスティングも効果的。



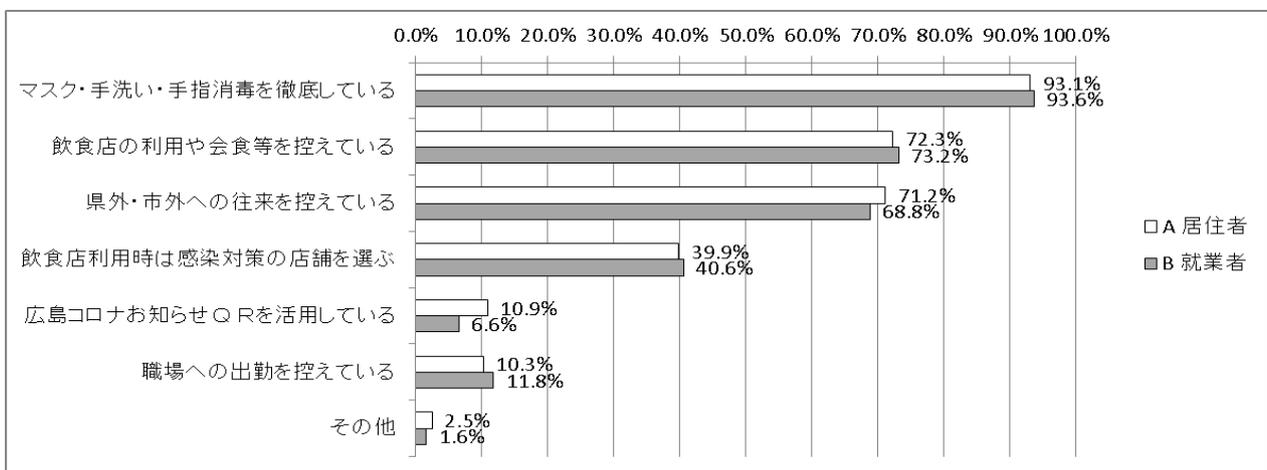
③ 受検の動機

→居住者は、「自己の健康状態把握」、就業者は、「職場の方針・指示」が最も多い。



④ 日頃心がけていること

→「飲食店利用時は感染対策の店舗を選ぶ」は、半数に満たない。



5 実施体制の検証について

	成 果	課 題	改善策
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビによる認知は約7割 ・チラシをポスティングした地区の受検率は、それ以外の地区の4.5倍 ・若年層の受検者は、薬局で検査キットを受け取った者が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・30歳代以下の受検者を増やす必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・受検日時別に地区を指定して、チラシをポスティングする ・薬局の活用策を進化させる(取扱い店舗の拡大等)
予約受付・相談対応	<ul style="list-style-type: none"> ・予約管理により、受検者の混雑(密)を回避 	<ul style="list-style-type: none"> ・コールセンターにつながりにくい時間帯があった(10時～11時に集中) ・コールセンターに多額の経費を要し、費用対効果が小さい 	<ul style="list-style-type: none"> ・コールセンターの電話回線を増設する ・コールセンターの繁忙・閑散時間帯に合わせて人員を調整する ・薬局等を活用して予約が必要ない仕組みを検討する
検査会場の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・受付→問診票記入・提出→唾液自己採取→検体提出まで概ねスムーズ ・平均滞在時間… ウォークイン:約16分30秒 ドライブスルー:約17分 ・薬局利用は、5～6分 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場オープン直後の10時台に行列ができた ・受検者が午前に集中し、夕方以降は少なかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・問診票の記入補助員を配置して行列の滞留を解消する ・薬局利用(検査キットの配布)を拡大して、検査会場での滞在時間を短縮する
薬局での受付	<ul style="list-style-type: none"> ・「検査会場に長居したくない」、「自宅でゆっくり唾液をとれる」というメリット ・薬局で検査キットを受け取った割合は、若年層が多い(0～19歳:38.5%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・検査キットの回収率は、75.7%(905/1,196) ・検体は検査会場まで持って行く必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬局において、検査キットの配布だけでなく、回収も行うことを検討する
就業者向け検査	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な61事業所、3,335人が受検 	<ul style="list-style-type: none"> ・予約者数と受検者数の乖離があった(歩留まり85%) ・事業所内で検体を集約する際の作業が煩雑という意見があった ・30人未満の事業所からも受検希望があった 	<ul style="list-style-type: none"> ・受検期間に幅を持たせて、受検機会を増やす ・検体の集約作業を簡易にする ・配送・回収コストを考慮して受検対象人数制限を緩和する
検査機関	<ul style="list-style-type: none"> ・検体プール検査法の導入により検査料を引き下げ(83%のコストカット) ・全ての受検者について、受検翌日に検査結果が判明し、陽性者に連絡 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、気温が上昇すると、検体搬送時の温度管理が必要(4℃以下) ・受検者が急増した場合に備えた検査能力の増強 	<ul style="list-style-type: none"> ・検体回収時に使用するクーラーボックスや保冷剤を確保する ・現在は1日約8,000件検査可能→4月下旬から追加で約4,000件検査可能

6 試行実施に要した経費

(単位:千円)

項 目	経 費
広報	6,315
予約受付・相談対応	88,170
検査会場の運営	55,252
薬局での受付	1,175
就業者向け検査	30,297
検査機関	17,284
検査後のフォロー	2,954
情報処理・分析	5,654
合計	207,101

7 振り返りの総括

[成果]

- ◎ 全体を通して、想定していたオペレーションにより、円滑に運営することができた。
～想定した1時間当たりの検査能力の1.5倍の来場者にも対応でき、なお余力があった。
- ◎ 広報媒体としては、テレビや新聞の影響が大きく、チラシのポスティングも一定の効果がある。
- ◎ 検体プール検査法の導入により、コストを大幅に抑制することができた。

[課題]

- ▲ 若年層の受検を促すため、職域に働きかけることや、より身近な場所で受検できる体制を整備する必要がある。
- ▲ 就業者向け検査については、業務日程と調整できるよう、一定の検査期間を設ける必要がある。
- ▲ コールセンターは、費用対効果が小さいため、薬局等を活用して予約を必要としない仕組みを検討する。
- ▲ 引き続き飲食店での感染対策に注力する必要がある。